

（1）学習の状況と課題

- 1年** 作業に意欲的に取り組む生徒が多く、技術的な能力も高く、課題解決に対して自ら工夫している生徒が多く見られる。立体を図に表すことも得意な生徒が多く難しい課題に正解する生徒もいた授業の間隔が大きく復習の機会が少ないため定期考査の結果に反映されない点が残念だった。
- 2年** 実習に前向きに取り組む、技術も向上している。また、問題に対し自ら工夫し解決するよう努力している。創意工夫し、より良い作品を製作・完成できるよう意欲的な学習活動を期待する。
- 3年** 実習に意欲的に集中して取り組み、作品を完成させる生徒が多く見られた。作業のみに止まらず理論的な部分への興味・関心が強い生徒も多く、今後の授業改善の必要性を感じた。

（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

- 1年** 学習のポイントなど、基本的な内容の定着を促す工夫を行う。
- 2年** 自ら創意工夫してより良い作品を完成することができるよう指導していく。
- 3年** 動作原理を理解し自ら設計・製作する力を養う。

（3）指導方法改善のポイントと方策

- 1年** 基本的な学習内容の理解を定着させるために、板書等の工夫により学習のポイントをより明確にする。それにより学習すべき情報量を減らし、理解しやすくする。また、定期的に学習のポイントを復習し、基本的内容の定着を図る。
- 2年** まずは、視覚的・具体的に完成した作品のイメージを伝え、また多くのアイディアも紹介し、すすんで作業へ取り組む姿勢を促したい。その上で、どうすればよりよい作品を完成できるのか、どのような創意工夫が可能なのか、工具や作業の進め方などを理解させつつ進めていく。
- 3年** 概念の把握が難しい理論や用語などを、生徒の頭の中でイメージしやすいよう簡単な基本的回路から、徐々に複雑なものへと、実際の回路を製作しながらすすめるようにする。その際、作業が煩雑になって授業内容への興味が半減しないよう、授業のすすめ方や教材の工夫も行っていく。